# ちひろ美術館·東京 美術館·友の会だより

2008.7.11

No.159



# ちひろと世界の絵本画家たち―技法のひみつ―

●2008年7月16日(水)~9月28日(日)

一枚の紙に、絵の具を塗ったり、線を引いたり、何かを貼ったり……。画家の手の動きや、画材の使い方までみることができるのは、原画ならではの魅力です。絵本画家たちは、国や地域の文化に根ざした伝統的な画材や技法を取り入れたり、画家自身があみ出した独自の手法を用いるなど、さまざまな工夫をこらして、個性豊かな世界を創りあげています。本展では、いわさきちひろや世界の絵本画家の作品を、画材や技法に焦点をあてて紹介します。

#### 展示室 1 ちひろの技法

展示室1では、ちひろの技法の変遷 を、年代を追って紹介します。

ちひろは14歳で洋画界の重鎮・岡田三 朗助に師事して、油彩画を学びました。 第二次世界大戦中の空襲でほとんどの作 品を焼失しましたが、戦後、画家を志し、 子どものための印刷美術の世界で活躍を 始めてからも、多くの油彩画を描いてい ます。しかし、絵雑誌や絵本の仕事が増 えるにつれて、次第に油絵の具よりも扱 いが手軽で、印刷原稿としても適した水 彩画が、ちひろの技法の主になっていき ました。

1950年代から60年代にかけての水彩画を、年代を追ってみていくと、次第に濁りがなくなり、明るく透明感のある色使いに変化していく過程がよみとれます。初期の水彩画では、不透明水彩を混ぜてつくったさまざまな色を、にじまないように塗り分けていますが(図1)、繰り返し水彩画を手掛けるなかで、濁りやすいパレット上での混色を避け、透明水彩を紙の上でにじませるという、画材の特性を生かした独自の技法を体得していきました。

1960年代後半から、ちひろの水彩画はさらに大胆に変化します。画面全体ににじんで広がる色のなかに子どものシルエットを白く塗り残す表現(図2)は、1968年ころから現れます。水のあるところに広がっていく絵の具を紙を傾けて流したり、ドライヤーの風で押したり、乾く前に別の色をさしたりすることによって生じる色調や抽象的な形があいまって、光や風、絵のなかの子どもの心象までもを豊かに伝えてきます。

1970年にはパステルを線描に用いる試みを行っています(図3)。鉛筆やペンの

線に比べて、顔料の粉末をわずかな粘着 材で固めたパステルは、細かい線描には 適しません。パステルで勢いよく線をひ く試みは、繊細な描写を特徴としたちひ ろの絵に、新たな伸びやかさをもたらし ました。パステル画は1970年のほぼ1年 間に集中して描かれ、その後描かれるこ とはありませんでしたが、晩年の水彩画 の勢いある筆運びには、パステルでつか んだ表現が生かされています(図5)。

# 展示室 2 世界の絵本画家たちの技法

展示室2では、ちひろ美術館のコレクションの中から、世界の絵本画家たちの作品約50点を、技法の解説や画材とあわせて展示します。

#### 描く

絵の具はどれも、土や鉱物を砕いた天 然顔料や合成顔料といった色の粒と、顔 料どうしを結び画面に定着させる展色剤 という2つの要素でできています。顔料 にアラビアゴムを混ぜれば水彩絵の具、 乾性の油を混ぜたのが油絵の具です。

イタリアのビンバ・ランドマンは顔料に卵黄を混ぜて描く卵テンペラという技法を使っています。ランドマンは1998年、ルネサンスの礎を築いたイタリアの画家ジョットにまつわる絵本『ジョットという名の少年』を出版、その後に絵本の全画面を、中世の祭壇画を摸して三連の板絵(図6)に描き出しました。イタリア中世の絵画とその色使いが好きだと盛をきわめた卵テンペラで板絵の制作に取り組んでいます。この技法独特の色の輝きと美しい金地の背景が、中世のジョットの物語を生き生きと伝えています。

中世の技法を用いたランドマンとは対 照的に、アメリカのレオ&ダイアン・ディロン夫妻は、アクリル絵の具にエアブラシという近代的な画材と描法を駆使して「池をわたる少年」(図7)を描いています。画面に絵の具を空気で吹き付けるエアブラシは、極端に細い線から滑らかなグラデーションまで描ける精密機器で、習熟すれば写真と変わらないほどの精緻なトーンが得られます。手描きではできないエアブラシのリアルな表現は、幻想的なファンタジーの世界を具現化するのに最適な技法だったのでしょう。

描法とあわせて画家はときに、絵を描

くベースになる紙の素材も吟味しています。中国の武建華は、甘粛省に伝わるユーグ族の民話をもとにした『天下一の弓使い』(図8)を、中国伝統の宣紙に描きました。表面に金箔を漉き込んだ砂金宣紙の質感と、背景ににじむ褐色の色面が、素朴な味わいを生んでいます。

#### 貼る

総本原画で使われる技法のひとつに、 いろいろな素材を貼り込んで画面を構成 するコラージュ(仏語で「糊で貼り付け ること」の意)の技法があります。

アメリカのエリック・カールは、自ら彩色した薄紙(図9)をカッターナイフで切り取りコラージュするという、独自の手法で、個性的な作品(図10)を作り続けています。カッティングによる輪郭線は描いた線にくらべてはるかに鋭く、カラフルな色調とあいまって作品をシャープで明快なものにしています。また半透明の薄紙は下の色が透けて見えるため、複雑な色のニュアンスと立体感を生み出す効果があります。

アルゼンチンのクラウディア・レニャッツィの絵本『Yo Tengo una Casa(わたしの家)』(図11)の原画には、パスタや豆、米、蝶の羽や葉っぱなどが緻密にコラージュされていて、ひとつひとつの素材の感触を間近に見て楽しむことができます。

#### 刷る

版画の技法を用いて作品を制作する画家もいます。スロヴァキアのアルビーン・ブルノウスキーの「黒い城」(図12)は、スロヴァキアの民話をテーマにした銅版画による作品です。エッチングの技法で刻まれた微細な線が重なり合い、絡み合いながら、形を作り上げています。銅版画ならではの濃密な画面で、重厚で文学的なイメージを創造しています。

造形作家でもあるチェコのクヴィエタ・パツォウスカーは、リトグラフによる限定本『すずの兵隊』(図13)を制作しています。リトグラフの平面的な表現が、赤と補色の緑の対比を効果的にみせています。表紙に施された半立体の造形や、針金で吊るされたすずの兵隊のドアノッカーから、作者が絵本を「紙の家」と考えていたことがうかがえます。

絵に使われた画材や技法を知ることで、 制作のプロセスや画家の絵本への深い思 いが見えてきます。(上島史子・山田実穂)



図1「いぬのあかちゃん」1953年



図2「買い物籠を持つ少女」1969年



図4「緑の幻想」1972年



図3「枯れ葉と少女」1970年



図 5 「スイートピーと少女」1973年

# 世界の絵本画家たちの技法

# 展示室2

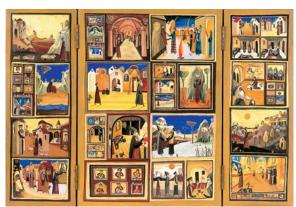


図 6 ビンバ・ランドマン (イタリア)『ジョットという名の少年』 のイメージ 2002~2003年



図7 レオ&ダイアン・ディロン(アメリカ)「池をわたる少年」1987年頃



図 8 武建華(中国)『天下一の弓使い』 より 1994年



図9 画材としての薄紙



図10 エリック・カール(アメリカ)「おんどり」 1985年



図11 クラウディア・レニャッツィ(アルゼンチン)『わたしの家』より 2001年



図12 アルビーン・ブルノウスキー(スロヴァキア)「黒い城」1990年

図13 クヴィエタ·パツォウスカー(チェコ) 『すずの兵隊』1985年

# 6月1日(日)「ちひろ美術館コレクション展」関連講座

# 「ちひろ美術館コレクションについて話そう!」

ちひろ美術館コレクションの蒐集につとめてきた松本猛が、作品の魅力や蒐集の裏話を、1時間半に渡ってお話しました。その一部をご紹介します。

#### 世界の絵本画家コレクションの出発点

ちひろ美術館を作るときから、実は世界 の絵本画家コレクションの構想はありまし た。当初の名前には「いわさきちひろ絵本 美術館」と、あえて「絵本」を入れていま す。僕は学生のころ、母・ちひろのほかに も、たくさんの絵本の絵描きさんたちと会 いました。皆自分の仕事に誇りをもってい るんですが、世間はそれを美術として認め ていなかった。絵本というのは確かに一冊 の本として価値を持ちますけれど、同時に 一枚の絵が価値を持つことも事実です。絵 本の一場面でも、情報量は印刷されたもの より、はるかに多い。その原画を保存し て、価値を広めると同時に、絵本も普及し ていくというのが、この美術館の使命と考 えたのです。

1985年にエリック・カールが来日したとき、自分の夢を語ったら、彼が「作品を寄贈するよ」と言ったような気がしたんです。

聞きまちがいだと思ったんですが、その翌日だったか、美術館に彼の作品が届いた(p.3図10)。これが記念すべき世界の絵本画家コレクションの第一号です。

難しいのは、どういう絵を集めるかという基準ですね。多くの美術館は歴史的に価値の定まった作品を集めます。絵本の場合はそこまで評価は固まっていないので、自分で考えるしかありません。僕が心の目安に置いたのは、技術的なレベルが高いこと、それからオリジナリティがどれだけあるか、そして人の心を掴む力量を持っているかということでした。

#### 作家と作品

クヴィエタ・パツォウスカーはチェコの画家です。十数年前、バルセロナで絵本原画展の審査員をしたとき、その線にびっくりしたんです。日本では、ちひろ美術館が最初に彼女を紹介したと思います。なぜこの人の作品が面白いかというと、例えば彼女は、数字というのは美しい形だというんですね。人類が数というものを生み出してから、無数の人達が考えて、使い続けている合理的な形で、単純にひとりが作り出した形じゃない。その形をどうやって生かす

# 松本猛 (安曇野ちひろ美術館館長)

かという発想をするんです。とても大胆な 絵を描きますが、歴史というものを考えて いる人です。素晴らしいイラストレーター は、ものを深く考えます。

赤羽末吉さんは、絵本の演出家として、 ナンバーワンじゃないかと思います。『ス ーホの白い馬』をはじめとして、どの絵本 も大変緻密に作られています。僕が20代の ときに彼は50代だったんですが、僕を若者 扱いしないんですね。「君の考え方はどう なんだ!」って迫ってくる、とても情熱的 な人でした。1998年にご遺族から赤羽さん の全作品の寄贈を受け、約6900点を収蔵し ています。寄贈を受けるということは、そ れを後世に残す責任と同時に、研究する責 任を負うわけですね。作品を受け入れて、 それを研究して、データ化していくという のは時間のかかる作業です。2010年に赤羽 さんの生誕100年の展覧会をしますので、 ご覧ください。

ボロルマー・バーサンスレンはモンゴルの20代の画家です。日本の人にはこの国の生活は描けません。コレクションを通して、各国の文化の素晴らしさを伝える機会が作れたらと思います。 (上島史子)

# 6月14日(土) 「ちひろと一茶」関連講座

# 「一茶俳句の魅力とふるさと柏原 | 中村敦子(一茶記念館学芸員)

長野県信濃町にある一茶記念館の中村 敦子学芸員に、一茶の人生やふるさと柏 原のこと、また一茶の俳句の魅力につい て、講演いただきました。

#### 『おらが春』から 子どもへの愛情

今回の展示で、ちひろさんの作品に「子ども」のテーマがありましたので、句文集『おらが春』から、一茶の俳句の魅力を探してみたいと思います。作られたのは一茶が57歳の時で、その前年に長女さとが生まれています。正月に詠んだ句「這へ笑へ二ツになるぞけさからい」は、さとが可愛らしくてしかたがない時です。さとの成長を追いながら自分の作品を作ろうと思っていたのに、その6月にさとは疱瘡で亡くなってしまう。一茶の構想は暗転しますが、それでも作品は仕上げていきます。悲しみを乗り越えた中に、一茶の俳句の魅力があります。

一茶の子どもの句を追って読んでみましょう。「はつ瓜を引とらまえて寝た子哉」「あつい迚つらで手習した子哉」、次の句はお母さんの立場になってしまいますが、「蚤の迹かぞへながらに添乳哉」とか、本当に可愛らしい子どもの姿を追った句が『おらが春』の中に入っています。

面白いのは一茶が、自分のさとのまわり に置きたい子、と前書きしてある句で す。「柳からも、んぐあ、と出る子哉」モ モンガって知っていますか?今の子でい えば風呂敷を肩にかぶって、マントにし てわあお化け!って感じです。「年問へ ば片手出す子や更衣」、小児の行末を祝 して「たのもしやてんつるてんの初給」 「名月を取てくれろとなく子哉」「あこが 餅あこが餅とて並べけり「わんぱくや縛 られながらよぶ蛍」など、一茶は結構い たずらっ子、やんちゃな子が好きなんで す。それから、利発な子にも惹かれてい た。元気な子、積極的な子が一茶は欲し かったんですね。さとは、一茶の理想の 女の子だったんと思うんですが、残念な がら亡くなってしまいます。

## 生き物へのまなざし

一茶の句は、いろいろな生き物にも目が向けられます。蛙の句が268句、動物では猫が多くて300以上、次が鹿、犬が3番目。昆虫で一番多いのが蝶、その次が蛍、第3位に蚊、4番が蝉、6番にノミ、7番に蝿、10番に虱。蝿で有名なのが「やれ打な蠅が手をすり足をする」。それ以外のいくつかの句を紹介すると、「おれとしてにらみくらする蛙哉」「大猫の尻

尾小「り通「となぶ哉ゆりりで蝶蛍らけうでがないりょうない。



見る蛙哉」、また、哀れな様子や生き物の心情なんかもうまく捉えています。「秋風に歩て逃る蛍かな」など、普通の人が見逃してしまうようなところを一茶が俳句にしてくれると、ああそうなんだって思えるんですね。

一茶はひねくれているところも一杯ありますが、生まれつき持っている優しさ、生き物を見る視点というものがあって、小さな子どもが昆虫や花とかをじいっと見て、何か一言ぽつっと言う言葉、大人がびっくりするような言葉を、生まれつき持っていました。その言葉の鍛強していました。その言葉の鍛強を、実は一生の間をかけて勉強してい感を、実は一生の間をかけて勉強してい感じられるのは、当時の口語を使っているからです。亡くなって181年も経れますが、「あ、同じだな」って、今の私たちが共感できるところに、一茶の俳句の魅力があると思います。

# ひとこと ふたこと みこと



### 5月10日(土)

札幌から来ました。大好きなちひろさんの絵と、それにとけ合うように存在しているこの美術館の空間がとても印象的でした。私は将来建築家を目指していますが、いつかちひろさんの絵のように多くの人に愛される、優しい空間を作れる人になりたいです。(まさみ)

#### 5月11日(日)

母の日なので新生活やGW帰省の 疲れを癒しに来ました。日々の生 活、育児、家事と何かと忙しく、 つい大事なものを見失ってしまい そうですが、ここに来ると落ち着 き、優しい気持ちになれます。自 分の中の子どもに出会えて癒され るからでしょうか?私は私でいい と思えるからでしょうか?今度は 娘と一緒に行きたいと思います。

#### 5月15日 (木)

一茶とちひろ、俳句と絵で小さなものへの慈しみの心が表現されていて、胸があたたかくなります。 みんながこの心を思い出して持ち続けたら日本はずっと住みやすくなるのに。でもこの心は誰でも持っていると信じたいネ。 (松木)

#### 5月17日(土)

ちひろさんと俳句、こんなにも関係が深いのかと初めて知り、驚きでした。句をよんでから絵をみると、また違った見方ができます。いろんな想像をすることができてよかったです。ちひろさん独特の余白、改めてすごいなと思いました。 (かとう 29才)

#### 6月3日(火)

雨の日に来たので、雨の日の絵がとても鮮やかに感じます。落ち着

いた気持ちになります。(MAO)

#### 6月10日 (火)

生徒を引率してきました。俳句を作ろうと誘って。でも私は作りません。子どもたちのちひろとの出会いから生まれる一句一句がとてもステキで…。負けますね…。ちひろとはじめて出会った子どもたちもいて、良い体験ができたと思います。 (K)

## <絵本どうぶつ百態展感想ノート> 5月28日(水)

「これだけ集めるのすごいよね」 隣の人がつぶやくのが聞こえました。全く同感!世界のコレクションを、テーマ別に見せて頂ければ幸いです。よく知っている絵本の原画も嬉しいし、翻訳未完の作品に会えると、どんな展開の中の絵なのか想像も楽しめます。 (K)

# 美術館 日記



4月11日 (金) 〇のち☆

長らく絶版だった「いわさきちひろの願ったこと」(松本由理子著)が、復刊される15冊の岩波ブックレットの1冊に選ばれた。この機会に、ちひろを知らない若い人たちが手にとってくれると嬉しい。このほか相田みつをとちひろのコラボレーション出版企画も進行中。

# 4月16日 (水) 🔆

お台場のサントリー本社にて、ちひろの水彩技法ワークショップの打合せ。昨年「日経Kids+」に安曇野館のワークショップが紹介されたのがきっかけで、『「水育」親子わくわく体験教室』(サントリー主催)に誘いの声がかかったため。8/1のイベント当日は、なんと500人もの子ども達がちひろのにじみやぼかしに挑戦する。

4月27日 (日) 🔆

毎年10万人以上が集まる練馬区の 「照姫祭り」に今年も参加。チラ シを配りながら館の存在をアピー

ルすると「子どもが小さいときよく通ったわ」という声がある一方で「どこにあるの?地元って近くて遠いのよね」など反応はさまざま。地元へ働きかけ続けることの大切さをあらためて噛みしめる。

# 5月29日 (木) 📯

「ちひろと俳句」展にあわせて一般に俳句を募集したところ、HPと館内の投句箱に約2週間で400句を越す投稿が。近隣の小中学校では、国語の授業のなかで、または実際に来館して、俳句作りに参加してくれたところも。本誌の次号で受賞作を発表します。

## 5月31日 (日) 🛠

秋の「生誕100年記念·茂田井武展」 に関する調査を進めるなか、所在 不明だった原画が約30年ぶりに発見された。初公開作品や資料などもあわせ、いま担当学芸員は展示構成づくりに奮闘中。

## 6月2日 (月) 〇

雨後の朝、羽化したあとのテントウムシの抜け殻が門扉にいくつも残っていた。5月初旬に次々と開花したつるバラは一段落。庭ではエゴノキやソヨゴなどの白い小花が風にそよぎ、アジサイのつぼみがふくらんできた。美術館の庭は、一年で今がもっとも賑やか。

#### 6月5日(木) ○の5分

12月より施行の新公益法人制度のガイドライン勉強会に、両館から担当者が出席。ちひろ美術館の運営母体である財団法人の事業や会計制度など、全てを新しい法律と枠組みに沿うよう整備しなければ。気の抜けない半年になりそう。

# 窓

# 『地球の悲鳴』

松本由理子(ちひろ美術館・東京 副館長)

入院中の母に付き添い、新聞もテレビも 見ない日が何日か続いた後のことだった。 通りがかりに目をやったテレビ画面に釘付 けになる。寸断され、V字型に折れ曲がっ た道路。岩手・宮城内陸地震の報だった。

一瞬にして崩れ去ってしまう大地。濁流に飲みこまれてしまう家屋。四川大地震を報ずる映像が重なる。あらためて、私たち人類は地球というプラネットの上に、ほんの一瞬、住まわせてもらっている存在にすぎないのだと思い知らされる。

地球が誕生して46億年。人類が自然に手を加えるという形で、地球にダメージを与

え始めたのは、いつ頃からなのだろう。 約1万年前、農耕・牧畜生活を始めたとき かもしれない。だが、回復不可能な形で、 地球に負の楔を打ち込むのは、18世紀後半 の産業革命からだろう。

化石燃料を使い、画期的に生産性を高めた産業革命。あれから二百数十年。人類はこの短い期間に、かつてないほどの人工的な豊かさを生み出した反面、46億年もかけて地球が内包してきたさまざまな豊かさを、傍若無人に使い果たしてきたのではないか。あたかも、その富が無尽蔵であるかのように。埋蔵資源も、多種多様な生物種も。

このまま温暖化が進むと、21世紀の終わりには、ブナ林は白神山地で7%に減少し、西日本や本州太平洋側では、ほとんど消滅してしまうという。私はブナのような落葉広葉樹が好きだ。やわらかな新緑、木漏れ日、秋の彩り、晩秋の枯れ葉。いわさきちひろの絵を、四季折々彩るのも、落葉広葉樹だ。落ち葉が豊かな土になり、生物を育み、保水力となって、洪水を防いでくれる。

もう、大量生産、大量消費、大量廃棄の 上に成り立った生活は送りたくない。未来 を生きる子どもたちのためにも、これ以 上、地球に悲鳴をあげさせないで。

# JECORNATICON

# ●次回展示予定 10月1日(水)~11月30日(日)

1966年、ちひろは約1ヶ月を かけて若き日からのあこがれ であるヨーロッパ各国を旅し ています。旅の体験が生かさ れた『絵のない絵本』や『あ かいくつ」、ラモリスの映画を 絵本化した『あかいふうせん』 などの作品に加え、旅情あふ れるスケッチも紹介。物語の 舞台への旅にいざないます。



「風船と街へ出るパスカル」1968年 『あかいふうせん』より

# ちひろ・旅の絵本 -ヨーロッパを訪ねて- | <企画展> 祝!生誕100年 夢と記憶の画家 茂田井武展

戦中から戦後の混乱期に、子どもの本の世界で 活躍した茂田井武。生誕100年を記念する本展 では、幼年時代の記憶を鮮明に描き出した折本 「幼年画集」や、3年にわたる欧州放浪で描か れた幻の画帳「Parisの破片」、我が子への慈し みを込めて描いた絵本、夢をもとにした絵物語



「おめでとうし

「夢の絵本」、晩年の絵雑誌「キンダーブック」や絵本『セロひきのゴーシュ』など、 茂田井の貴重な原画約130点を数々の資料とあわせて展示し、画業の全体像と人間 像を紹介します。

# 東京館イベント予定

各イベントのお問合わせ・お申し込みは、ちひろ美術館・東京イベント係へ。 ちひろ美術館のHPからもお申込みできます。 http://www.chihiro.jp/tokyo/event.html TEL.03-3995-0612 FAX.03-3995-0680 E-mail chihiro@gol.com

# ●こどもワークショップ

# 8/3(日)「積み木のラビリンス」

14:00~17:00 講師:森哲弥(彫刻家) 対象:小学生(3年生以上) 定員:20人 板の上に木片を積んだりならべたり ― 道や 家、橋などのラビリンス(迷宮)をつくります。 できあがったら、ビー玉を走らせて遊びます。



### 8/10(日)「再生紙でつくる壁飾り」

14:00~17:00 講師:森友見子(造形作家) 対象:小学生 定員:30人 身近な紙をミキサーで再生して、ひんやり、 ぺたぺたした、紙の素をつくります。形をつ くって、乾燥させれば壁飾りに。

#### 8/17(日)「色の本をつくろう」

14:00~17:00 講師: ちひろ美術館学芸員 対象:小学生(3年生以上) 定員:30人

何気なく目にしている「色」に注目。みんなで大きな紙に色を塗り、そ

こから一番きれいだと思う色を探して、色の本を作ります。

## 8/24(日)「くてくたにんぎょう」

14:00~17:00 講師:オガサワラマサコ(造形 作家) 対象:小学生 定員:24人 大きくなって着られなくなった大切な服。思い出 のつまった服を使って、自分だけの人形をつくろ



う。針と糸を使います。

#### 8/31(日)「ちひろの絵のひみつ」

14:00~17:00 講師: ちひろ美術館学芸員

対象: 小学生 定員: 30人

ちひろの水彩画はどのように描かれているのかな?ち ひろのテクニックを使って、水彩画を描いてみよう。

#### 9/7(日)「みんなでダンス!」

11:00~12:30 講師:伊藤千枝(振付師/ダンサー)

対象: 小学3・4年生 定員: 16人

体を動かして表現するコミュニケーションワークショップです。じぶん

の体、ともだちの体、自由に楽しく動かしてみよう。

#### ●館外での関連イベント

## ● 7/26(土)と8/30(土)池袋コミュニティ・カレッジ講座

7/26 ちひろ美術館・東京訪問(ギャラリートークと水彩技法のワーク ショップ体験)

8 /30 池袋コミュニティ・カレッジにてちひろの水彩技法講座 詳細は池袋コミュニティ・カレッジTEL03-5949-5487へ。

#### ●8/1(金)「水の日」に開催される<サントリー「水育(みずいく)」 親子わくわく体験教室inお台場>で〝ちひろの水彩画にチャレンジ

サントリーでは、環境への取り組みの一環として"水"をテーマにした 体験型学習「水育(みずいく)」活動を行っています。ちひろの水彩画 の体験のワークショップも開催します。 時間:10:00~16:00 場所:サントリービル2階(東京都港区台場2

-3-3) 対象:小学生とその保護者 参加費:無料

詳細は http://suntory.jp/MIZU-IKUへ。

#### ●お知らせ

#### 新商品紹介 2009年ちひろカレンダー

9月1日より発売予定

表紙:本を抱える少女

1-2月:猫と羽子板を持つ少女 3-4月:桜の下で遊ぶ子どもたち

5-6月:緑の風のなかの少女

7-8月:海辺の小鳥

9-10月:「ロンドン橋がおちる」 11-12月:雪のなかを走る子ども



<ちひろ生誕90年×映画「赤い風船」特別企画> お得な限定チケットセットを受付にて発売中

映画鑑賞券/ちひろ美術館入場券/オリジナルポストカードつき/2000円(税込み)

# ●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日14:00より展示室にて、作品の解 説や展示のみどころなどをお話しします。7/16(水)、

8/20(水)は松本猛(安曇野ちひろ美術館館長)がお話しします(参加自由)。

# ●えほんのじかん

毎月第2・4土曜日11:00より展示や季節にあわせて、 絵本の読み聞かせなどをおこないます(参加自由)。

\*授乳室もご利用になれます。

### **CONTENTS**

ちひろと世界の絵本画家たち-技法のひみつ-……❷❸ ちひろ美術館・東京 活動報告 ちひろ美術館コレクション 展関連講座「ちひろ美術館コレクションについて話そう!」/ちひろと一茶関連講座「一茶俳句の魅力とふるさと柏 原」……4ひとことふたことみこと/美術館日記/窓…5

美術館/友の会だより No.159 発行2008年7月11日

